令和４年度　第２回　城北小学校運営協議会

令和４年６月１０日（金）

浜松市立城北小学校

次　　第

（司会：教頭）

資格確認

１　会長あいさつ（岩井会長）

２　校長あいさつ（校長）

３　議長の選出

４　前回会議録確認・・・資料１

５　熟議（司会：議長）

（１）４・５月の実践について

（２）キャリア教育を柱とした人づくり・・・資料２

　・キャリア教育の充実のためにできること

６　その他

（１）学校運営協議会年間計画

・１０月２１日（金）　１３：３０～　※授業参観と併せて開催

・　２月　２日（木）　１４：３０～

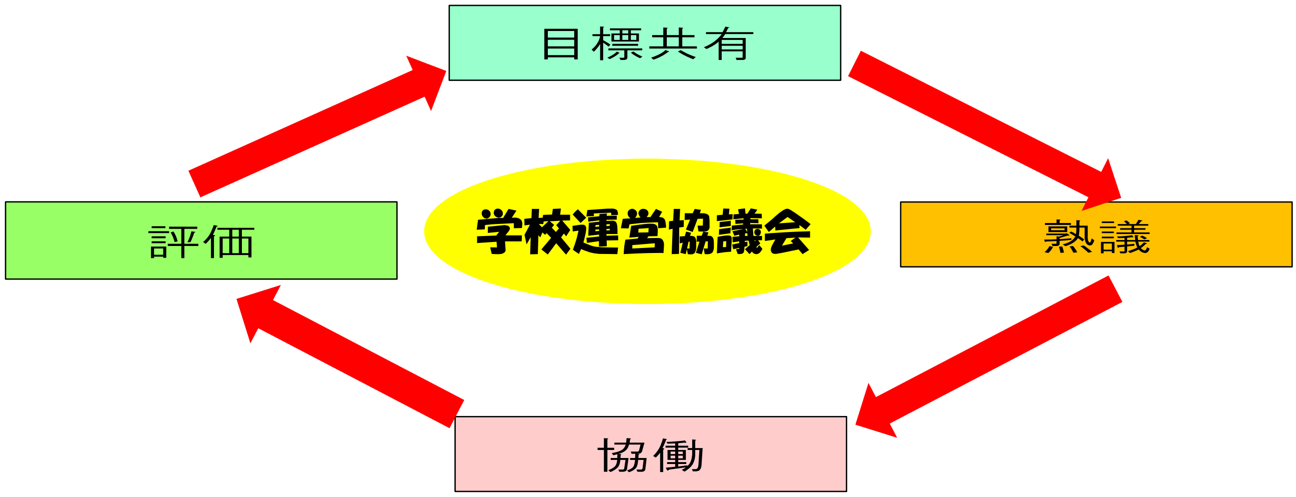
（２）学校運営協議会自己評価実施要項・・・資料３

（３）地域回覧たより、ポスターについて

・地域回覧（和地山１２０、住吉３００、和合１７０）

・ポスター掲示（和地山１、住吉３４、和合５、学区内商店１７、協働センター１、青少年の家１、城北小２）

運営協議会のねらい 学校運営の中で特に課題となっていることを焦点化し、地域や保護者からの意見をいただくことによって、よりよい解決策を検討する場とする。



学校運営協議会委員

会長	いわい　くみこ 岩井弘美子
委員	かわしま　まさゆき 川嶋　正幸
委員	なかがわ　かつお 中川　勝夫
委員	たかやなぎ みちこ 高柳　理子
委員	なかがわ　ともひろ 中川　智博
委員	すずき　ちえ 鈴木　千栄
委員・学校支援ＣＤ	しみず　ひろと 清水　裕人
委員	ふかや　まさみつ 深谷　真光
委員	やまぎし　えり 山岸　絵里

オブザーバー

静岡大学	おおのき りゅうたろう 大野木龍太郎
はままつ青少年の家	いのした　しゅんすけ 井下　俊輔
高台協働センター	かわにし　ひろあき 河西　博昭
高台協働センター	やまぐち　ともあき 山口　朋章

学校支援コーディネーター

	かみうえ　りえ 紙上　理恵

学校

校長	やまうちとしひろ 山内登志弘
教頭	さかもと　ともひこ 坂本　友彦
ＣＳ担当教職員	まつばら　としじ 松原　利治
ＣＳディレクター	こたに　るみ 小谷　留美

浜松市教育委員会

教育総務課	すずき　ようこ 鈴木　陽子

学校運営協議会　年間計画

令和4年4月1日～令和5年3月31日

※　委員の過半数の出席がないと開催できません。

※　感染症の感染拡大防止等、状況により、開催が中止、あるいは延期になる場合があります。

回	日時 会場	主な内容　熟議のテーマ　等	備考
1	令和4年 4月28日 木曜日 14:30～16:00 会議室	（1）学校運営の基本方針について （2）本校のコミュニティ・スクールの考え方 ①城北小サポーター活動計画 ②城北小CS「やらまい會」情報発信 ③子供の居場所づくりについて （3）夢育やらまいか事業に対する意見書について （4）学校運営協議会の自己評価	
2	6月10日 金曜日 14:30～16:00 会議室	（1）４・５月の実践について （2）キャリア教育を柱とした人づくり ・キャリア教育の充実のためにできること	
3	10月21日 金曜日 13:30～15:30 会議室	（1）タブレットを使った授業について （2）城北小サポーター活動実践（6月以降）について （3）タブレットの活用について （4）その他	学校運営協議会の自己評価表 委員の意見収集⇒学校への提出締め切り日（R3=3.14）
4	令和5年 2月2日 木曜日 14:30～16:00 会議室	（1）学校関係者評価 ①　本年度の教育活動の説明 ②　学校関係者評価を元にした改善案についての説明 ③　改善案についての熟議 （2）来年度の学校経営の基本方針説明 （3）来年度のCS活動の計画案※CS活動の説明 （4）学校運営協議会の自己評価 5　その他 （1）夢育やらまいかCS加算分報告	

資料１

令和４年度　第１回　城北小学校運営協議会　会議録（要点記録）

１　開 催 日 時　　令和４年　４月２８日（木）　14 時 30 分から 16 時 15 分まで
２　開 催 場 所　　城北小学校　会議室
３　出 席 委 員　　岩井弘美子、川嶋　正幸、中川　勝夫、高柳　理子、山岸　絵里
　　　　　　　　　深谷　真光、中川　智博、鈴木　千栄、清水　裕人
４　欠 席 委 員　　なし
５　オブザーバー　　河西　博昭（高台協働センター）
　　　　　　　　　井下　俊輔（はままつ青少年の家）
６　学校支援コーディネーター　紙上　理恵
７　学　　　　校　　山内登志弘（校長）、坂本　友彦（教頭）
　　　　　　　　　小谷　留美（ＣＳﾃﾞｨﾚｸﾀｰ）
８　傍　聴　者　　なし
９　協 議 事 項
（１）議長の選出について
（２）学校運営の基本方針について
（３）本校コミュニティ・スクールの考え方
　　①城北小サポーター活動計画
　　②城北小ＣＳ「やらまい會」情報発信
　　③子供の居場所づくりについて
（４）夢育やらまいか事業に対する意見書について
（５）学校運営協議会の自己評価
７　会議録作成者　　ＣＳディレクター　小谷　留美
８　会 議 記 録

司会の坂本教頭から、委員総数９人のうち８人の出席があり、過半数に達しているため、会議が成立している旨の報告があった。

（１）議長の選出について

司会から、議長の選出について意見をもとめたところ、清水委員から会長を推挙する旨の発言があり、協議の結果、全員異議なくこれを承認した。

（２）来年度の学校経営の基本方針説明について

議長の指示により、山内校長から、学校運営方針（グランドデザイン参照）について説明があり、委員からは、以下の発言があった。

・不登校が増えている。（高柳委員）
・価値観が違い、子供や親のＳＯＳがなかなかキャッチできない。需要する扉を開き、寄り添うことが大事（中川智博委員）
・特効薬がないから、皆で支えていく意識をもち、認める。生活習慣が多様になってきているため、様々な経験をすることが大事。（岩井委員）
・学校での生活を続けていく。そのうち、勉強したくなったら、自分からするようになる。（川嶋委員）
・以前よりもキャリア教育は手厚くなってきている。さまざまな問題が起きるのは、学

校ではなく、世の中の親の問題。（高柳委員）
・過去は教科書をツールに勉強していた。デジタルだけでなく、山といった自然の中で体験した方が楽しいかもしれないが、なかなかできなのが現状。本校はいろいろな体験ができている方だと思う。（中川勝夫委員）

（３）本校コミュニティ・スクールの考え方

①城北小サポーター活動計画

②城北小ＣＳ「やらまい會」情報発信

・学習支援のサポーターを増やしていく。（岩井委員）
・先生たちのお手伝いができる（高柳委員）
・城北小のまわりの環境が整っているので、さまざまな案を提案していく。（清水委員）

③子供の居場所づくりについて

・城北小学校校区体育振興会が中心となって、夏休みに城北小の体育館を利用して、体を動かす機会を提供する。（川嶋委員）
・城北小の１年生から６年生までを対象とする。（岩井委員）
・共稼ぎの家庭もあり、昼食もほしいところだが、まず対応できるところから始める。（深谷委員）
・予算は体育振興会から出す。（中川智博委員）
・細かいところはこれから詰めていく。子供たちと地域の人と触れ合う機会をつくるために、まずは立ち上げることを第一に考える。（川嶋委員）

（４）夢育やらまいか事業に対する意見書について

議長の指示により、坂本教頭から説明があり、承認された。

その他報告事項等

司会から、次回会議は、令和４年６月１０日（金）１４時３０分から城北小会議室で開催する旨の報告があった。

１．４・５月の実践について

（１）給食支援

４月―９日間、５月―７日間　　計１６日間（昨年度：３２日間）

サポーター延べ　８４人参加（昨年度：６４人参加）

（２）プール草取り

５月１６日（月）　※雨天のため中止

（３）城北小サポーター説明会

５月２６日（木）

サポーター延べ　１１名参加（昨年度：２３名参加）

（４）職員玄関生け花

毎月１回　住吉フラワーアレンジメントクラブ

サポーターさんの声

◎　たくさんの子供たちとも顔見知りになれるので、学校に行く度に、子供たちの方から声をかけもらえて、とてもうれしいです。

◎　給食支援のボランティア活動に参加後、担当の先生より、お礼のメールが届き、あたたかい気持ちになりました。

◎　ＱＲコードを利用して、学校へ連絡するのをずっとためらっていたが…説明会を聞いて、参加しようと思いました。

◎　城北小サポーターの活動は、ずっと気になっていてやってみたかった。まずは、登録してみよう！と思いました。

◎　回覧板で『城北小やらまい會』のことを知り、参加したいな…と思った。でも、年齢的に…当日の朝の具合で参加できなくなった時のことを考えると、ちょっと抵抗があった。でも、気軽に参加してもOKとのことだったので、参加してみよう！という気持ちに変わりました。

◎　『やらまい會』のボランティア活動に参加したいというお友達がいるので、登録してもらいます！。

◎　一人で参加するのは勇気がいるので、お友達のお母さんと一緒に、活動に参加してみます！

◎　今年も、”できる時に、できることだけ”活動したいなと思っています。

◎　募集計画を初めて見たけれど、いろいろな支援活動があって、子供たちと関われる機会が多くて、とてもおもしろそうです。

▲　募集内容のメールからでは、活動内容がわかりにくく、自分にできる内容のボランティアかどうか判断できず、参加しづらい…。

▲　QR コードからの登録が、うまくできなかった…。

▲　入学する時に『やらまい會』のことを教えて欲しかった。１年生の保護者も、給食支援のボランティアに参加したかったのに…残念。

▲　去年の花壇整備の時、子供たちが後から植えるスペース分だけを残して、それ以外の整備をしたのだが…、子供たちが植えたりする時間に、ボランティアの活動時間を合わせてくれれば、子供たちと交流しながら花壇がきれいにできて良かったのでは？！

▲　活動当日に、何を・どんな風に・支援に入れば良いのかを、しっかり説明してくれる人がいて欲しかった。子供たちに対し、どの程度、注意や指示をして良いものか…判断に悩む。

▲　お店探検の支援など、子供たちの行動をサポーターに一任する場合には、要注意な子供がいるグループの担当サポーターに対して、事前に、その旨を教えてもらいたかった！！お店先＆道中で、大変困った。

▲　この前、３年生の学区探検をやってしまったとのことで…、今年こそ、学区探検の見守り支援をしたいと思っていたので、残念…。

（５）今後の予定

月	常時活動	学習支援	環境支援
６	読み聞かせ	学区探検見守り支援（３年）　清水先生	プール草取り 竹村先生 花壇整備　瀧本先生
７	図書整備	史跡探検見守り支援（６年）　亜紀乃先生	草取り　瀧本先生
８	掲示		
９	生け花	ミシン支援（５年）　杉浦先生 ミシン支援（６年）　亜紀乃先生	植木の剪定 桜井さん、三上（用務員）
１０	清掃	お店探検見守り支援（２年）　庄山先生 防災センター見学見守り支援（４年） 三島先生	植木の剪定 桜井さん、三上（用務員）
１１	裁縫	和地山公園秋見つけ見守り支援（１年） 久子先生 版画（彫刻刀）支援（４年）　三島先生	花壇整備　瀧本先生 植木の剪定 桜井さん、三上（用務員）
１２		書初め支援（３年）　清水先生	
１		凧作り教室支援（１年）　久子先生	
２			
３			草取り 体育館周辺整備 桜井さん、三上（用務員）

２．キャリア教育を柱とした人づくり

キャリア教育で育てたい力　❤人とつながる力　♠自分の良さに気付く力

・キャリア教育の充実のためにできること

３．その他

（１）次回の予定

１０月２９日（金）　１３：３０〜１５：３０

※授業参観と併せて開催

資料２

キャリア教育ってなに？

　みんなが夢と希望をもって、未来に向かって生きていくことができる力を育てる教育のことだよ

どんな力が必要かな？

人とつながる力

　他の人の考えや立場を理解して、相手の意見を聞いて、自分の考えをしっかりと伝えることができる力

自分の良さに気付く力

　自分が「できること」「したいこと」「やってよかったなと感じること」に気付いて、これから自信をもって生活しようとする力

キャリア教育を通して育てる

４つの力

課題に取り組む力

　生活する中でいろいろな問題を見つけて、解決しようとする力

チャレンジする力

　学ぶことや働くことの意義を理解して、自分から取り組もうとする力

令和４年度　浜松市立城北小学校　キャリア教育全体計画

学校教育目標
友と仲良く　よく遊び　よく学ぶ子

目指す学校像
一人一人の笑顔が 輝く城北小

目指す子供像
みとめ合う子 きたえ合う子 みがき合う子

児童の実態
言われたことに素直に取り組む。明るく元気がいい。 自分で気付き、主体的に行動する力が弱い。

【キャリア教育目標】
自ら考え、自ら学び問題解決や探究活動に**主体的**・創造的に取り組むことができるようにする。

【キャリア教育で目指す子供像】
自ら学ぶ意欲をもつ子
学ぶ楽しさや成就感を体得する子

キャリア教育で育てたい力				
	人とつながる力	自分の良さに気付く力	課題に取り組む力	チャレンジする力
低学年	声を掛けあって、一緒に活動することができる。	自分の良さを見つけることができる。	課題に向かって、取り組むことができる。	どんなことにも最後まで取り組もうとすることができる。
中学年	周りの人と協力することができる。	自分の良さを見つけ、進んで行動することができる。	自分の解決したい課題を選ぶことができる。	どんなことにも進んで取り組むことができる。
高学年	異学年や地域の人たちに思いを伝えたり、相手の思いを受け止めたりすることができる。	自分の良さに気付き、自信をもつことができる。	身の回りから、課題を見つけることができる。	自分を高めるために、めあてをもって取り組むことができる。

各教科領域における内容				評価
各教科・外国語	道徳	総合的な学習の時間	特別活動	・学校評価アンケート（７月、１２月） ・全国学力学習状況調査の結果
学ぶことの大切さに気付かせ、将来にわたって学び続ける姿勢を育む。	自己を見つめ自他とともによりよく生きようとする心を育てる。	学び方、ものの考え方を身に付け、主体的に問題解決しようとする態度を育てる。	自発的、自治的な活動を展開させながら、自主的、実践的態度や人とかかわる力を育てる。	

令和３年度　城北小学校　学校評価

１　令和３年度の取組　　（キャリア教育で育てたい力　♥人とつながる力　◆自分の良さに気付く力　♦課題に取り組む力　♣チャレンジする力）

【徳】みとめ合う子	【体】きたえ合う子	【知】みがき合う子
「ひと・もの・こと」にかかわり、命や心を大切にする子を育てる ♥ソーシャルスキルの育成 ◆「正しく強く美しく」カードの取組の充実 ♦城北の子１０ケ条の定着 ♣「考え議論する」道徳科授業の工夫	進んで挑戦し、最後までやり抜く子を育てる ♥交流活動の充実 ◆目標を明確化し、達成感をもたせる活動の工夫 ♦健康安全教育の推進（姿勢・交通安全等） ♣運動チャレンジカードの取組の充実	課題をもち、学び合いを通して、よりよく解決する子を育てる ♥かかわり合い、考えを深める場の設定 ◆学ぶよさやつながりを実感する振り返りの工夫 ♦単元構想の工夫 ♣ＩＣＴ機器を活用した授業の推進

２　自己評価

○　児童の評価

みとめ合う	友達と仲良く過ごしている。	95.8%
	明るい挨拶、返事をしている。	87.5%
	正しく、優しい言葉を使っている。	86.8%
きたえ合う	身の回りの整理整頓や後片付けをしている。	82.3%
	外に出て元気に遊んだり、運動したりしている。	92.6%
	交通ルールを守って生活している。	97.3%
みがき合う	話す人の目を見て話を聞いている。	88.9%
	大きな声ではっきりと発表している。	76.0%
	正しい姿勢で学習している。	69.9%
キャリア教育	自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け止めたりしている。	82.8%
	自分の良さを見付けることができている。	78.9%
	身の回りから課題を見付けている。	80.7%
	自分を高めるために、めあてに向かって取り組んでいる。	83.5%

○　保護者の評価

みとめ合う	友達と仲良く過ごしている。	95.7%
	明るい挨拶、返事をしている。	87.7%
	正しく、優しい言葉を使っている。	79.4%
きたえ合う	身の回りの整理整頓や後片付けをしている。	60.5%
	外に出て元気に遊んだり、運動したりしている。	82.2%
	交通ルールを守って生活している。	96.8%
みがき合う	話す人の目を見て話を聞いている。	85.1%
	大きな声ではっきりと発表している。	72.5%
	正しい姿勢で学習している。	67.9%
キャリア教育	自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け止めたりしている。	82.8%
	自分の良さを見付けることができている。	78.5%
	身の回りから課題を見付けている。	55.3%
	自分を高めるために、めあてに向かって取り組んでいる。	67.6%
学校・教師	先生は子供に確かな学力を付けさせようと努めている。	90.0%
	先生は子供、保護者の話を良く聞こうと努めている。	89.4%
	学校は、保護者、地域の人たちの協力を得て教育活動の充実に努めている。	91.7%

○　職員の評価

・「正しく強く美しく」カードの取組は児童に定着している。もらったカードを見直し、ありがとうカードを書くことができた。
・学習カードを活用することで、児童たちがめあてを意識したり、振り返りをしたりすることができた。
・健康安全教育として、保健指導や食育指導を朝リモートを活用して、効率よく指導することができた。
・ICT 機器を様々な場面で活用することはできたが、必要に応じて効果的に使えているかは課題である。
・キャリア教育で育てたい力と結び付けた教科指導は、年間計画に沿って実施することに努めた。反省をもとに計画を見直し、来年度につなげていきたい。
・CS の活動では、校外学習の補助やプールの監視、花壇や樹木等の環境美化活動をしていただき大変助かった。

３　今後の改善方策

・ソーシャルスキルの育成については、道徳の授業と連携させて、計画的に実践を積み上げていきたい。
・「運動チャレンジデー」を設定し、サーキットトレーニングなどによる体力アップ、縄跳びの技術向上など目指したい。
・ICT は手立ての一つであることを踏まえ、効果的な活用を今後も模索していきたい。スキルが発達段階に応じて身につくように配慮する。
・キャリア教育については、学期に１回は研究授業を行い研修を深める。
・CS の活動は、効果的な活用ができるように互いに連絡を取り合い、充実した活動ができるようにする。

資料３

学校運営協議会自己評価実施要項

浜松市教育委員会

１　趣旨

この要項は、浜松市学校運営協議会規則（令和元年　浜松市教育委員会規則第２号）第８条に規定する学校運営協議会（以下「協議会」という。）の自己評価の実施について必要な事項を定める。

２　評価の目的

各協議会が、自らの取組について、その取組内容や達成状況等について自己評価し、改善につなげることにより、保護者、地域住民等の対象学校の運営への参加を促進し、当該運営の改善及び児童生徒の教育活動の充実を図る。

３　評価の実施

協議会は、以下の評価項目について自ら評価を行う。

＜評価項目＞

（必須）　※全ての協議会で行う。

１　学校運営の基本方針について熟議することができたか。

２　学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

３　今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）。

（参考）　※各協議会で設定する。

４　協議会の取組や学校運営に資する活動について、教職員、児童生徒、保護者、地域に周知することができたか。

５　協議会の取組や学校運営に資する活動について、保護者、地域と連携し、協働することができたか。

４　自己評価の結果の報告書の作成

協議会は、自己評価結果を様式１により、簡潔にとりまとめる。

５　評価結果の公表

協議会は、自己評価の結果について、ＣＳ便りや学校のウェブサイト等を活用し、広く保護者や地域住民等に公表するよう努める。

６　評価結果の報告と改善支援

⑴　教育委員会への報告

協議会は、様式１を当該年度末の指定する日までに教育委員会へ提出する。

⑵　教育委員会による改善支援

ア　様式１の活用

様式１は教育委員会教育総務課が集約し、各協議会の運営状況について把握するための資料とする。

イ　評価結果等に基づく改善支援

教育委員会は、評価結果等に基づき、各協議会の取組の改善が図られるよう、必要な助言又は指導を行う。

附　則

この実施要項は、令和２年９月１日から施行する。

学校運営協議会自己評価表　作成の留意点

学校運営協議会制度は、教育課程の改善・充実や特色ある学校づくりなど学校運営を強化する仕組みである。
対話や信頼・納得をベースとする仕組みであることから、学校運営協議会が、自己評価の視点として「熟議」の在り方を中心に据え、熟議をとおした学校運営協議会の充実に向けて、よりよく改善していく意義は大きい。
その結果、合議に基づき、学校運営に参画するともに、保護者、地域住民等の学校運営への参画を促進し、学校運営の改善及び児童生徒の教育活動の充実を図ることができる。
コミュニティ・スクールが持続可能で有効なものになるためにも、学校運営協議会が自己評価を行い改善していくことが、質の維持・向上にとって重要である。

【　評価の視点　】

＜評価項目１＞　必須〇　学校運営の基本方針について熟議することができたか。

☐　校長の後押し、学校運営の経営強化のために当事者として、参画する自覚を持っている。
☐　「はままつ人づくり未来プラン」の教育理念を理解している。
☐　自校の学校教育目標、めざす子供像を理解している
☐　自校の学校･家庭･地域の実態を踏まえ、「育てたい力」を共有している。
☐　学校運営と学校評価、学校関係者評価について理解している。
☐　学校教育に関する用語やその意味を理解しようとしている。
☐　分からない用語があれば、質問し、理解に努めている。
☐　「社会に開かれた教育課程」の意味を理解している。
☐　学校教育の現状について、深い理解につながっている。（成果や課題）
☐　委員同士が信頼関係を深めている。
☐　他の委員の考え方を聞き、新たに視野を広げている。

＜評価項目２＞　必須〇　学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

☐　地域学校協働活動の意味を理解している。
☐　自校の「育てたい力」とそのために必要な地域学校協働活動のつながりを考えている。
☐　学校･家庭･地域の役割分担を意識している。
☐　学校運営に必要な支援について、積極的に協議している。（ねらい、主体、システム等）
☐　地域･保護者に広く周知するため、その取組に積極的に参画、参加をしている。
☐　地域･保護者に広く周知する方策を考え、その取組を評価･検証している。
☐　地域･保護者に広く参加を促す方策を考え、その取組を評価･検証している。
☐　有用感、満足感を感じている。

＜評価項目３＞　必須〇　今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

※　**自校の実態を踏まえ、具体的に方向性を示す。**
※　**教育活動の充実のために、「熟議」に基づき、学校と地域の協働につなげる。**

評価項目１～３は、必須です。評価項目４～５は、各学校運営協議会ごとで、独自で追加する場合に、ご利用ください。

（様式１）

令和４年度　学校運営協議会自己評価表

浜松市立（　　　　　　　）学校運営協議会長

必須

＜評価項目１＞　学校運営の基本方針について熟議することができたか。

必須

＜評価項目２＞　学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

必須

＜評価項目３＞　今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

※評価項目を追加する場合は、協議会で協議して決定する。

＜評価項目４～＞　（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

記載例

（様式１）

令和４年度　学校運営協議会自己評価表

浜松市立（　　　　　　）学校運営協議会長

必須＜評価項目１＞　学校運営の基本方針について熟議することができたか。

○　学校運営の当事者として、学校の現状を知り、学校の教育目標だけでなく、学校教育で目指すもの等をしっかり理解していこうと、委員が様々な視点から積極的に意見を出し合い、学校・家庭・地域で「※具体的な育てたい力について記述する」について、共有することができた。
○　校長のリーダーシップの下、学校運営、経営の強化となるよう、まずは、「※具体的な育てたい力について記述する」というベクトルを合わせる熟議をするよう努めた。十分とは言えないが、これからの時代を生き抜く児童・生徒に必要な資質・能力とは何か、学校だけではなく、地域・家庭も一緒に育てる必要性を考えることができたことは、自分たちにとっても大変有益であった。
●　校長から学校運営の基本方針について、目指す子供の姿、身に付けたい資質・能力などのビジョンについて説明を受け、理解したつもりだが、まだ、熟議をとおして、学校・家庭・地域で一緒に子供を育てる目標として、共有できたとは言い難い。安心して話し合う雰囲気をつくり、委員の思いを出し合い、教育理念や何のために、どんな姿を目指すのかを十分共有しないと、主体的に協働に向かえないのではないかと考えている。次年度も熟議の充実に向けて、委員全員で学んでいきたい。

必須＜評価項目２＞　学校運営に資する活動について熟議を進めることができたか。

○　共有した「※具体的な育てたい力を記述する。」に向かって、子供たちを一緒に育てるために、まずは、既存の教育活動の意義、ねらい、計画から評価までの流れなどを見直すことが大変役に立った。コロナ禍で、絶ち切れになっていたことを今後どのように、地域等で関わりながら、子供にとって、有効なものにしていくのか、どんなことが必要なのか、熟議することができた。委員の多様な発想の中から、新たなヒントが見つかり、教育活動の質の向上につなげられると実感した。
○　地域・保護者・企業等による子供たちの教育活動における協働について、学校支援コーディネーターから、計画や活動報告が示され、熟議により、さらに発展したアイデアが出された。活動後、よりよい成果があったと報告があり、協議会としても有用感が高まった。
●　学校の課題やニーズが十分につかめていない状態であるので、じっくり進めている。地域がどのように動いていけば、子供たちの力や可能性を伸ばすことにつながるのか思案中である。教職員の多忙な状況も理解しているので、まずは、授業や活動の様子を参観したり、一緒に取り組んだりして、方向性を見付けていきたい。

必須＜評価項目３＞　今年度の取組の評価を踏まえた来年度の目標（取組の重点）

○　各委員の学校教育への理解を深め、協議会の熟議にも馴染んできた。来年度も委員全員で、意見を出し合い、教育活動の充実のために、協議会の合議として意見をまとめることができるようにしたい。
○　学校運営に資する活動として、どのような教育活動があるのか、実際に、学校の教育課程に沿って、その様子を知ることが大事であった。「※具体的な育てたい力」とのつながり、活動の意義、企画から評価までの流れなど、学ぶべきこともあるので、協議会の中で、情報共有をして、熟議から協働へとつなげていけるようにしたい。自分たちも一つ一つ、成功体験を積み上げていきたい。
●　様々な立場の委員の意見を聞いたことで、学校や子供を捉える視点が広がった。学校、家庭、地域で一緒に子供を育てる必要性と共に、役割分担も大切だという共通認識をもった。その旨を整理し、家庭・地域へ発信していきたい。
●　社会に開かれた教育課程、資質・能力、キャリア教育等、自分たちも共に学ぶことが多い。委員の学習会などの機会をどのように設定するのか検討したい。

※学校運営協議会ごとに、評価項目を追加する場合
＜評価項目４＞　（例：協議会の取組や学校運営に資する活動について、教職員、児童生徒、保護者、地域に周知することができたか。　　　）

○　各協議会の最後に、熟議の内容を総括し、発信につなげるように努めた。ＣＳディレクターや学校支援コーディネーターの力を生かし、簡単ではあるが、分かり易いＣＳだよりの企画を話合い、実践した。協働センターへの掲示も依頼し、周知を図った。今後も地域の感想などを参考によりよくしていきたい。
○　４回の協議会のうち1回は、教職員との熟議を実施している。年間計画にも位置付けてもらい、有意義な熟議になっている。互いに顔が見える関係であることが大事である。継続していくことが当面の目標である。

※学校運営協議会ごとに、評価項目を追加する場合
＜評価項目５＞　（例：協議会の取組や学校運営に資する活動について、保護者、地域と連携し、協働することができたか。　　　　　　　）

○　地域に□□会という支援組織が発足し、歩み出した。年度当初の顔合わせや活動の振り返り等の課題はあるが、持続可能なネットワークになるとよいと考えている。来年度は、そのシステム作りをしていく。
○　サポートメンバーが増え、充実してきた。募集から、実施、事後の振り返りまでの流れができつつある。参加者の感想などを基に、さらに改善した有効な仕組みにして、子供たちや先生方の役に立つ取組にしたい。

☆　各協議会の具体的な事例を盛り込んだ内容で記載する。